

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	上位目標：エルビル県およびドホーク県の学校における教育環境の改善 達成度： ・ 本事業対象 3 校における教育環境の改善： 100%達成
(2) 事業内容	国内避難民が通学している中・高等学校 2 校の改築及び設備・備品の提供を行う。 1. アロホワ中・高等学校（ドホーク県スメル郡ドミズ） 既存校舎、トイレ・手洗い場及び設備の修復、備品の供与 2. アルターキ中学校（エルビル県エルビル市アザディ地区） 既存校舎、トイレ・手洗い場及び設備の修復、備品の供与 3. アルウクワ高等学校（エルビル県エルビル市ムフティ地区） 既存校舎、トイレ・手洗い場及び設備の修復、備品の供与
(3) 達成された成果	1. アロホワ中・高等学校（Alokhweh School） ドホーク県スメル郡ドミズ（Domiz Complex, Sumel District, Duhok Governorate） 2014 年以降ニネワ県からの国内避難民が多く通う当校にて、2016 年 11 月 22 日～2017 年 6 月 7 日にかけて、計画通り、使用不可に陥っていたトイレの改修、老朽化し壊れていた窓と扉の取り換え、壁の塗装、電灯と電気スイッチの取り付け、吊天井の設置、校庭と裏庭の整地とコンクリート作業を実施し完了した。 生徒と教職員が週 6 日、8 時～17 時、3 シフト制で校舎を使用していたため、施工中は、学校長・教職員と密に調整し、改築工事が授業妨害にならないように、まずは校舎外回りの作業を終わらせ、また、祝日や休暇時にはペンキ塗りをするなど作業箇所を特定し、漸進的に工事を進めた。施工業者と作業員は協力的で、当団体が指定した建設作業時の安全対策を実行した。現地教育局との連絡調整に関しても問題や遅延なく進んだ。 2017 年 6 月 8 日に現地当局エンジニア部の査定を経て、引渡しを行った。他校同様夏休み後 10 月に新学年度が始まり、現在は、下記 2 校が 3 シフトを組んで校舎を共同使用している。 教職員・生徒への聞き取りによると、本事業で同校が徐々に改修されてゆく様子や作業前後の改善を目の当たりにして、授業や勉学への意欲においても向上がみられるだけでなく、生まれ変わった校舎を大切に

	使おうという意識変革も起こっている。例えば教員は自主的に生徒への衛生啓発を行い、トイレや洗面台が以前のように詰まって使えなくならないように使い方や掃除について伝えていた。 シフト 1ーアロホワ中・高等学校（アラビア語）304 人（中 1：238 人、高 2：66 人） シフト 2ーアロホワ中・高等学校（アラビア語）582 人（中 2：147 人、中 3：203 人、高 1：107 人、高 3：125 人） シフト 3ーハフダム男子校（クルド語）525 人（高 1：252 人、高 2：180 人、高 3：93 人） [成果を測る指標] 直接裨益者数：生徒 1,411 人（うち国内避難民 454 人）、教職員 83 人 間接裨益者数：3,000 人（地域の住民及び国内避難民世帯） 2. アルターキ中学校（Al-Ta' akhee School） エルビル県エルビル市アザディ地区（Azadi District, Erbil City, Erbil Governorate） 本事業にて、校舎内外装、校門校庭及び屋根の修繕と塗装、電気系統の取り替え、雨水排水システムの設置、屋上の防水加工、トイレや手洗いの改修および机の修繕を行い、備品を提供し、本校の教育環境を改善した。引渡し後の聞き取りによると、校長先生の元に訪れた卒業生が、以前と見違えるほどの学校環境の改善に驚いていたと述べ、生徒たちはトイレの改修以前は、トイレが破損していたため学校外の施設（主にモスク）を使用せざるを得なかったが、改修後は構内のトイレが使用できるようになったため授業に専念でき、以前より試験のスコアが上がったと述べていた。また、以前は雨水で水浸しになり溜まった水で滑りやすかった校庭の排水が改善されたため、校庭でバレーボールやスポーツをする生徒の姿が見られるようになった。 [成果を測る指標] アルターキ中学校 直接裨益者数：生徒 310 人（うち国内避難民生徒 10 人（国内避難民生徒数が減少したのは、元居住していた地区や、より良い生活環境を求めて新設の国内避難民キャンプや難民として国外に移住していったため）、教職員数 23 人 間接裨益者数：約 1,860 人（アザディ地区の生徒（アラビア語を母語とする）とその家族数）
--	---

	3. アルウクワ高等学校 (Al-Ukhuw' wa School) エルビル県エルビル市ムフティ地区 (Mufti District, Erbil City, Erbil Governorate) 本事業により、校舎内外壁の塗装と窓・ドアの修繕交換、屋上の防水加工、電気系統の修繕、トイレの改修および清掃、浄水槽、汚水槽の汚泥回収や水タンクの取り替え、学校敷地内のフェンス手摺りおよび机の修繕を行い、備品を提供し、本校の教育環境を改善した。校長先生や教員からは、破損した窓が取り替えられたことで、冬の冷たい寒気が入らなくなり、また外の騒音も防ぐことができ、生徒たちが授業に集中できるようになった、また、以前は開け放しであった廊下の出入り口にドアが設置されたことで、授業中に無許可で家に帰る生徒数が減ったと報告があった。教室の電灯が常時点灯するようになったことで、曇天の日や、夜間シフトに通う生徒が白板や教科書を見やすくなり、以前よりも試験のスコアが上がった生徒も多く見受けられるとのことである。また、改善された明るいきれいな校舎を自分たちで清掃し維持しようと掃除係を名乗り出る生徒もいるとのことから、本事業が生徒たちの学習環境を改善したことで、彼らの学習意欲の向上や、公共の施設をよりよく維持しようとする姿勢が見られるようになった。 [成果を測る指標] ・午前シフトーアルウクワ高等学校 直接裨益者数 :生徒 650 人(うち国内避難民生徒 100 人、難民生徒 50 人、イラク人 500 人(アラビア語を話すイラク中南部出身のエルビルに居住するイラク人)(以前は午前、午後、夜間の 3 シフト制であったが、午後シフトで学習していた難民生徒とイラク人生徒は午前シフトに組み込まれ、午前、夜間の 2 シフトとなっている)、教職員 30 人 ・夜間シフトーアグリーン高等学校 直接裨益者数 :生徒 314 人(うちキルクーク、トゥズからの国内避難民 14 人、ホストコミュニティ 300 人)、教職員 30 人 間接裨益者数 :約 5,784 人(ムフティ地区の生徒(アラビア語を母語とする)とその家族数)
(4) 持続発展性	本事業により改築された校舎は、完成後に管轄の教育局に引き渡され、同教育局の責任のもと、教育局予算にて維持管理が行われる。また、日常的な維持管理については、校長・教職員・保護者・地域住民が中心となっていく。当団体は、校舎を教育局へ引き渡した後、6 ヶ月間モニタリングを行う。モニタリング期間内に、校舎に不具合が生じていると判明した場合には、施工業者が責任を持って修繕する。